

## 第6回新宿区文化芸術振興会議（第7期）要旨

■開催日時 令和6年7月25日 午後1時から午後3時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

### ■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 藤岡紗絵 堀家睦子 梅本武文  
工藤真実 大和滋（欠席 岡室美奈子 飯田直子）

\*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 鯨井文化観光産業部長 村上文化観光課長 原文化観光係長 五十田主事

### ■議事の進行

#### 1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

#### 2 議事（要旨）

- (1) 新宿区文化芸術振興会議の内容確認について  
資料1-1及び資料の1-2に基づき、前回会議（令和6年3月29日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 報告事項  
「私たち区民」による文化芸術振興の重点項目に関する主な取り組みについて、資料2-1及び資料2-2に基づき、事務局が説明を行った。
- (3) 調査審議事項  
調査審議事項について、資料3、資料4及び参考資料に基づき説明を行った。
- (4) 意見交換
- (5) その他

#### 【以下意見交換】

- ・「新宿フィールドミュージアムは新宿のまちをミュージアムと見立てて、区内の様々な地域や施設で開催される多彩なイベントやパフォーマンスなどを集約して年間を通じて情報発信することにより、区内の文化芸術活動を活性化していくことを目的としている」という認識だが、さらにこの新宿のまちというものを、これまでは幾つかに分けて考えていたと思う。
- ・新宿駅周辺や四谷とか神楽坂、落合、早稲田は神楽坂に含めてもいいと思うが、そういうふうに、その中で行われるイベントを総括しているような形でフィールドミュージアムと言っている。
- ・それはいいと思うが、むしろその地域を1つのミュージアムとして見立てて、例えば新宿のまち、新

宿駅周辺なら、あの辺の空間を1つのミュージアム会場として見て、あそこには何がある、あそこには何があるというような案内の仕方をフィールドミュージアムだとも考えた。

- ・その具体的なのがこの冊子の18ページ。「新宿のまちの文化・歴史を訪ねて」と、ここに載っているこれも、この見方。そこに歴史のいろいろなものがあるのを、ある地域を訪ねて案内するとか、そういうのもフィールドミュージアムと言っていいと思う。

- ・そういう意味合いが割と最近の議論の中で薄れてきて、何かのイベントを行うことがフィールドミュージアムの重要な要素であることは変わらないが、それだけになってしまった。

- ・まちをミュージアムに仕立てるという考えも残しておいていいのではないかと感じている。

- ・資料2-1を見ると、区内における文化芸術の取組についてという、非常に具体的に様々なことを区ではやられてる。その最後のページに「区内の主な文化芸術関連施設」がある。その中に「図書館」があるが、もう少しいろいろな図書館のことを考えてもいいのではないか。

- ・それから、最後の「その他の施設」の中に含めていいが、新宿はデパートが多い。デパートも、美術展もあるし、いろいろな文化的ことをやっている。そういう意味では、デパートの存在にもう少し注目していいのではないか。

- ・今、私が言いたいのは、新宿フィールドミュージアムの概念と、新宿区の文化の中でデパートも考えていただきたい。

- ・報告書案は、本当に大変まとまっていてよろしいかと思うが、最後に付けている新宿区文化芸術振興基本条例の前文がとてもすばらしいとっていて、もっと浸透していったほしいといつも思う。

- ・新宿区自治基本条例については、小学校で、分かりやすい冊子が配られている。新宿フィールドミュージアムの冊子も、以前は小学校は多分全員配布だったのかと思う。

- ・今は全校配布ではなく、学校もチラシなどがペーパーレス化が進んでデータでお渡しするというところで、配っていないと思うが、やはり子どもの観点から言うと、自分から見たい、自分から行きたいというところに親のフィルターが入らないほうがいいのではないか。

- ・紙で新宿フィールドミュージアムの冊子が、できれば基本条例とかをもっと子どもに分かりやすく、「自分たちはこういう文化豊かな地域で育っていくのだ」というのを見ながら、「こんなイベントがあるよ」というのが手元に届くととてもいいのではないかなと、子どもを持つ側の視点からはとても思った。

- ・新宿フィールドミュージアムの概念について、「新宿plus」の18ページがとても分かりやすいと思う。「ここ行ってみよう」と思えるようなこういうものを、新宿フィールドミュージアムの冊子の中でも活用されていたら、もっとフィールドミュージアムの概念が分かりやすいなと思った。とてもいいコーナーだなと思うので、もっと広く知られたらいいと思う。

- ・報告書に関しては、今までこの会議で話し合った内容を凝縮してすごくうまくまとまっていて、シンプルで言いたいことを網羅していただいている、いいのかなとは感じた。

- ・資料2-1「区内における文化芸術振興の取組について」は①から⑤まで柱があって、①がまちの記憶を継ぐ・生かす、まちへの愛着と誇りを育てる取組についてという感じで、こんなにやっていたんだというぐらいやっていると聞いた。

- ・この取組についていろいろ見ていった中で、資料の「担当課」に目をつけた。文化観光課はもちろん軸になっていると思うが、10か所ある特別出張所とか、道路課とか、まちのことなので景観まちづく

り課とか図書館とか。もう1つ軸になっていると思うのが新宿未来創造財団。そこが多分すごく主になってやっていると思う。

・次の2は子どもに関わってくるので、子ども家庭課、子ども家庭支援課とか学校運営課とか、区の中でいろいろあるが、横のつながりというか、どのくらい連携しているのか。

・この報告書案にもいろいろなところ、例えば観光振興財団とかと連携をしていくとか、あと新しいまちづくりのこと、新宿駅が今度思い切り生まれ変わるが、そういうときにもいろいろな関係部署のところで「連携して」とかとある。連携はすごくいい言葉だとは思いますが、本当にどこまでやっているのかなというのがすごくあって、本当に新宿区民のことを考えてくださっているのであれば、そういう「チーム新宿」みたいな形での文化芸術振興の取組というものを、いろいろな部署があると思うが、それぞれが考えていけるような形になっていければ、区民としては申し分ない。

・新宿は、本当にいろいろな文化がゴロゴロ落ちているような所だと思うので、それを洗練されたというか、凝縮した、一見したらカオスのような感じではあるが、それがきれいな虹色みたいな感じで。

・私の大好きな「大新宿区の歌」というのがあるが、その最後に「虹を立てる」というのがある。そんなイメージで新宿区は、音楽や美術だけではなく日常生活も文化だと思うが、よりよく文化を中心として、もっともっと発展していければ、こんないいことはないのかと思う。

・新宿フィールドミュージアムとしてのコンテンツはもう十分過ぎるものだと思っている。

・文化芸術の中心である新宿文化センターが今、休館していて、開館が2025年12月か。オープニングコンサートだが、こういう機会を利用して、リニューアルオープンを大々的に発信して、大きく取り上げるべきではないか。

・その間、新宿文化センターの事業は、東京オペラシティなどで行われているようで、我々もオペラシティなどで、いろいろな宣伝等協力体制をとっている。

・また、子どもたちに関する事業や、そういうのを全部網羅してはいると思うので、それをいかに発展させて広く伝えていくかということが重要になると思う。

・1つ参考までに、ロサンゼルス・フィルハーモニックの音楽監督は、ベネズエラ出身の指揮者。ベネズエラはすごく貧しい国で、どうしても治安が悪いとか、そういう教育的な問題を、国が主導で貧困層の子どもたちを集めてオーケストラをつくった。楽器は貸与で、それが続いてもう20年くらいやっているのか。そこから著名な指揮者も出てきたりしている。

・その出身の指揮者がロサンゼルス・フィルハーモニックの音楽監督になって、就任してから何をしたかというところとアメリカの貧富の差が激しい、貧困な地域にオーケストラの指揮者やスタッフが出向いて、音楽をやりたい子どもたちを条件なく集めて、教えるのではなく、音楽づくりをしようということをもう10年続けてきたそうだ。

・その結果、貧しい家庭の子どもたちで学校に行けない子がたくさんいる、又は向学心がない。ところが、そこに参加した子どもたちは、やる気が出て、ほぼ90%以上が大学に進学しているそうだ。そのような実績があって、まちの人たちが寄附で支えている。

・これはアメリカとか海外の貧富の差が激しい国のことなので、あまり日本には当てはまらないかなと思いつつ、日本的なものがどこかにあればいいとは思いつつ、そういう「子どもの教育」。

・総務省の統計では、文化より実際のお金だとかというような話もあったが、そういう事業。ただ、お

金がかかるので、やはり自治体が中心になってやるか、何かしないとできないことだと思う。自治体とかボランティアとか、そういう中心になってやる人がいないとできないという問題が1つある。

- ・今週から「朝日新聞」の文化欄に、千葉県少年少女オーケストラの音楽監督である佐治薫子さんの記事が載っている。最初小学校の音楽の先生をやっていたが、ある日、校長か教頭からハーモニカの合奏団をつくれないうこと、始めたそうだ。

- ・ハーモニカとアコーディオンから始めて、始めは手弁当で、指揮台はみかん箱から始めたが、子どもたちの家族のボランティアで、手づくりの指揮台や打楽器ができたりしてきた。随分前の話だが、今では文化庁とかいろいろなところから表彰されるような立派な少年少女オーケストラになって、大したもの。

- ・これも人ありきの問題だが、そういうような、何か核となるようなものを目指していくべきではないかと。ただ、これは「じゃあ、やりましょう」と言ってすぐできるものではないので、やはり時間をかけてじっくり取り組んでいかなければと思っている。

- ・新宿フィールドミュージアムは、コンテンツはたくさんあって素晴らしいと思うが、やはり何が核なのかが見えてこないというのが。それがあればいろいろな形で、今それぞれが発信するので、広がっていくと思う。

- ・そもそも「新宿フィールドミュージアムって何？」というのがあり、今日ご説明があったような形でまとめていただいたと思っている。

- ・報告書案の10ページの真ん中のところで、まず概要説明が入っている。決してこれはイベントだけにこだわっているという話ではなく、まずはこの新宿のまちの特徴である様々な文化芸術の施設やイベントがあるという、この日本でも類を見ない多様性と言うか、そのところをまず冒頭で大きく打ち出されていると思っている。

- ・いろいろ手法に関するコメントはあるが、区内の文化芸術活動を活性化していくという、まずこの目的がこの報告書の中でしっかり入ったことは非常に明快でよかったと思う。

- ・私は事業者のほうなので、そういった点でいくと、次のページのところで多くの区民の方、あとは区外のお客様に来ていただくことによって、順序はいろいろあると思うが、「新宿区内の文化芸術団体がよりやる気を出す」というコメントが入っている。新宿区としては、こういった向上感をつくるというようなところがとても大切だという気がする。そういったところは、非常に分かりやすい報告書案になったと思う。

- ・こういった形で、この提言を区長に答申して、今後、政策決定がなされてくるかと思う。

- ・この参考資料の事業の概要のところ、今申し上げた目的とか、お客様に多く文化芸術を楽しんでいただけるような事業者連携というところ、実際はその目的とか、あとは報告書案の中で、地域だけではなくて分野別に見せていくとか、こういう一貫性のある方針のところ、公式サイトとか公式SNS、もしくはイベント、あとは協議会の運営のところ、一定の骨太の方針が各作り手のところ、論議する方々のところで浸透できるような内容という点でも、今回の報告書案は分かりやすいと感じている。

- ・そういった点で言うと、この多様性を生かした形で。多様性というのは、逆に個々人の方が選べる環境があると思っているので、そういった形でこの報告書案が今後ご活用いただければと考えている。

- ・コロナの2年間を通していろいろな議論が出て、いろいろなレベルが混乱していたと思う。

・この間の議論でも、文化芸術振興基本条例をつくって、区長が新宿フィールドミュージアムをつくろうと言ったが、中身がここに書かれているような多様な主体の舞台ということがあり、それを再度確認できたという意味で、コロナ禍を経て、原点に戻りつつ、新たな強化する点が挙げられた。

・今申し上げたように新宿フィールドミュージアムは、この多様な主体の新宿のまち全体をミュージアムとして見立てるということを言うのであり、完全に抽象的なものなのだが、138団体集まっている新宿フィールドミュージアム協議会が主体となって行われるものと、そして新宿区の区の事業としては公式サイト、公式SNS、文化月間というような形で考えていくのがふさわしいと考えている。

・これが今度確認できたということがいいのかなということと、先のお話しのとおり、まちということでもいいのだろうと思っている。

・何らかのことをフィールドミュージアムと、西口の問題、今回提言を出して、これが振興会議というよりも、違うセクションにもどう受けもらえるかという問題に移っていくのだろうと思うが、何か次の展開というか、区民のことをもうちょっと考える時期にもなっているのかなという気もしている。

・今までどちらかということと交流や発信とかが中心だったが、1点別件で、東京都も動くが、部活動の地域連携、地域移行が進んでおり、学校のクラブ活動を地域でやる。

・スポーツは結構受け皿が各区とか、何々スポーツ協議会みたいなものがあるが、文化がなかなかない。

・それで、9月に全区市町村を集めて、東京都がシンポジウムをやるみたいな。来年までが移行促進期間で、その次の2024年以降が、もうちょっと一歩進めるみたいな3年間で、これは、スポーツはいっぱいあるが、文化はなくて、私どもは、芸能花伝舎クラブという伝統芸能を学べる場を設ける実験をやっている。

・それこそ東京フィルハーモニーさんのところだったら、オーケストラの練習場がどこにあるか分からないが、そういうところで何かやるとか。SOMPO美術館さんも、小中学生を呼んでいろんなことをやられている。

・文化関連の団体が、何かそういうものに新宿区が試しに取り組むみたいなことの、ちゃんとしたそういう地域の受け皿。国も東京都もそういう流れになっているので、何かそういうことを考えてもいい時期なのかなという気がした。

・これは先のことだが、コロナを経て、その教訓も経て、この2年間の議論でまた1つのまとまりが今回できたのかなと思うので、次の展開を考えられたらいいなと思った。

・特にICTについては議論が拡散する時期もあったかと思うが、大分まとまってきて、こういう報告書案に結実した。

・ICTの活用は、論点が非常に広くて、どこに焦点を当てて提言という形でまとめられるかということが難しく、最終的には新宿フィールドミュージアムという、今あるコンテンツをよりよくするためにというところに焦点化をした。この点について、他の委員の皆様のご同意をいただけたことは、大変嬉しく思っている。

・もう1点は、新宿駅の周辺地域の再開発との関係。これは民間主導の再開発であって、しかも行政としての関わり合い方というのは、都市計画という非常に大きな強力な枠組みの関わりということなので、慎重に、丁寧に提言をしていかないと受け取ってもらえないのではないかといいところがあり、新宿フィールドミュージアムのICT活用に比べると、具体性に欠けると思われるかもしれないが、こういう形で要望するというのか、文化の大切さといったところをさらにリマインドする。

・業者さんたちも今、特に鉄道業者さん。鉄道会社さんたちも、ライフスタイルについては非常に興味関心があり、文化に対してある意味追い風が吹いている状況なので、このくらいの言い方であっても先方に伝わるだろうということで取りまとめをさせていただいた。

・報告書案の後ろのほうに審議の経過が載り、いろいろな議論があったということをつなげるような形で残していけるということもあるので、今後の件はどうするのかというのは次の期で決めることかと思うが、これまでの議論を踏まえ、さらに発展して焦点化して次の提言につなげるというような作業までできたのではないかと考えている。

・行政ができることと、むしろ行政でなければできないこと、つまり民間ではなかなかできにくいところがある。1つは規制緩和であり、まちづくりの方向性を示すこと。もう1つは人の育成。これはなかなか民間企業が手を出すのは難しいところであり、まさに社会全体で行政が積極的に関わる部分であろうと思う。

・役所はよく縦割り行政と言うが、これは組織を動かすために必然的で、教育に関して、人材に関して、やはり教育分野は積極的に主体的に行うというのは原則原理だから、これに対してどこまで文化のほうからアプローチができるかというところが、ご担当の工夫の余地のあるところと理解している。

・人材育成もそうだし、行政のシナジー効果を最大化するための内部での連携強化と、それから外部との連携といったところも課題として見えてきたかなというのが、今期の議論の流れだと思っている。

・全体を通じて主役はやはり情報で、情報をどう発信し、誰にどういうふうを受け取られるか。それはスマホを使ったり、従来の紙媒体であったり、あるいは人間関係であったり、それをあらゆる手段を通じて、伝達するということがポイントになると思う。

・例えば、漱石山房。漱石が好きな人はあそこに行ったらいいかということ、スマホで、どこで何をと分かる。実は、他にも藤田嗣治の史跡があったりして、全体の中で漱石山房はここにある。藤田はここにあるし、それからおとめ山の佐伯祐三もある。全体の中でぽんぽんと幾つかある。そのどれかに行きたいのはもちろん、そこに行くという意味での全体的な情報。実際に大いに役に立っているので、そういうこともうまく考えていっていただきたいと思う。

### 3 事務連絡等

9月から10月頃に区長報告会を予定し、日程や会場等については別途事務局から連絡することとした。

### 4 閉会

高階会長が文化芸術振興会議の閉会を宣言し、閉会した。